



さんかくす なん
三角州は、何のはたらきでできるの

かわ みず
川の水のはたらき

川の水には、3つのはたらきがあります。川の水が川岸や川底を、けずったりするはたらきを「しん食作用」といいます。川の水がけずりとった土や砂、小石などを下流の方へ運ぶはたらきを、「運ぱん作用」といいます。

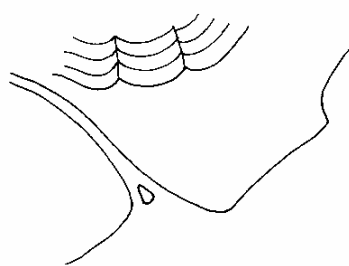
また、川の水が運んできた土や砂、小石などを川底に積もらせるはたらきを、「たい積作用」といいます。

かわ みず せきさよう
川の水の「たい積作用」によってできる

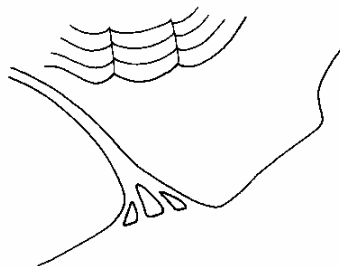
川が河口近くまで流れてくると、川の流れがゆるやかになります。すると、川の水が運んできた土や砂などが積もり、流れの真ん中あたりに、中州という、島のようなものができる。

川の水が、中州の左右に分かれて流れていくうちに、さらに土や砂などを積もらせて、中州が、だんだん大きくなっていきます。このようにしてできたものは、三角形をしているので、三角州といえます。三角州は、川の水の「たい積作用」によって、できたものです。（監修・国司 真）

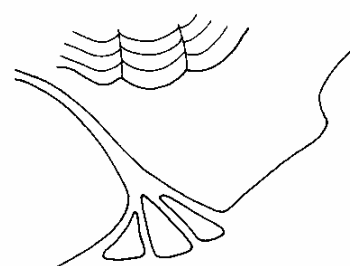
三角州のでき方



河口では流れがゆるく、真ん中に土や砂がたまる。



土や砂がどんどん積もっていく。



大きな三角形の土地ができる。

